

【諫早市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

以下のことを通して、子どもたちがより広く、より深く学ぶことができるようになることを目指していく。

○個別最適な学び

- ・教師による一人一人の反応の把握、理解の見取りが容易になること、残された学びの跡を教師が即座に確認できることで個に応じた手立てが考えられる
- ・AIドリルの導入により、一人一人の習熟度に合った問題に取り組む
- ・自分の学習課題に対してより簡単に調べ学習ができる
- ・写真・音声・動画等を用いて多様な資料作成ができ、表現力を育む
- ・遠隔教育が可能となり教室で授業が受けられない子どもに学びを届ける

○協働的な学び

- ・共同編集ツールを利用し、教室内のみんなで即座にアイデアを出しあい学び合う
- ・個人で考えた意見、資料、作品を即座に共有し学びを深める

○時間短縮による学びの確保

- ・配付物、資料の提示等における時間短縮を図り、学習時間を確保する

2. GIGA 第1期の総括

学校間、教職員間に活用頻度や活用能力に差はあるものの、Google アプリの使用方法や操作方法に慣れてきた教職員が増えた。中級者や上級者向けの研修にも直近3年間で200名を超える教職員が参加し、活用の幅を広げた。

ICT 機器に不慣れな職員や苦手意識の高い職員に対しては「初級者向けの研修」を開催し底上げを図った。

学校訪問をした際には、多くの学校や学級で、提示資料をモニターに映しており、その利便性について実感している感想も聞かれた。教職員の中には、子どもたちと画面を共有したり、子どもの画面を大画面に送信し、練り合いの題材として取り上げたりしており、協働的な学びに資する活用が見られた。

また、遠隔で他市町とつないで交流を図ったり、自宅で学習している子どもにタブレットを介して授業を見せたりと、ICT 機器利用の利点をさらに広げる取組もなされている。

3. 1人1台端末の利活用方法

- 個別最適な学びや協働的な学びを推進していく中で、教職員及び児童生徒の積極的なICT活用を促していくために、ICT活用研修を通して、操作方法や活用方法を示すとともに、その利便性を伝えていく。
- 学習支援システムやAIドリル等のタブレット内のアプリ以外についても周知し、活用の幅を広げ、ICT活用を推進していく。
- 授業と授業外の学びをつなげるための活用方法等を探っていくとともに、その情報共有に取り組んでいく。
- 家庭学習のみならず、文房具として家庭で利活用できるように促していく。
- 学級で授業を受けられない子どもに学びを届けられるように、遠隔授業の方法等に対してサポートを行っていく。

以上のような取組を通して、一人一人の子どもに学びを届けるための利活用の方法を探るとともに、教職員の活用能力を高め、授業や授業外でさらに一人一台端末を活用する機会を増やしていく。